

令和4年度（2022年度） 鴻池小学校 第2回学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和4年 12月14日（水）18：00～19：15

2. 場 所 鴻池小学校 視聴覚室

3. 参加者 協議会委員 : 阪田会長・北田副会長・松原委員
堤委員・松居委員・寺井委員・銀杏委員
教職員 : 宮谷校長先生・安井教頭先生
欠席者 : 欠席者 1名
教育委員会より：二宮教育委員・太田教育委員・二宮指導主事

4. 学校長あいさつ

コロナの第8波が続いている。本校もずっとこらえていたが、感染者が増加している。長期欠席が続く児童については、Zoomを使ったオンライン学習で対応している。また、AIドリルの使用も始まったところで、まずは児童に使用方法などを教えている。本格使用は年明けを予定している。個別最適な学びの方法として、今後の活用が期待できる。タブレットの活用については、特に低学年は持ち運びが重たいなど、様々な課題を抱えながらどのように対応していくかを考えているところである。コロナ禍の中ではあるが、学校行事や研究発表会、出前授業、トライやるウィークなども行うことができた。例年の形に近い、様々な教育活動を行うことができたので、それも含めて様々な意見をいただけたらと思う。

5. 課題

(1) 学校の様子について

- ・ホームページは毎日更新している。10月末の段階で、10万アクセスを超えた。多くの人たちに見ていただき、感謝している。学校通信は、年間40号の発行をめざしており、現在35号まで発行したところ。
(学校だよりにそって、2学期のふり返り)
- ・体育大会は保護者入れ替え制、子どもたちは全学年の演技を参観する形を取った。行事後の感想でも、「他の学年を見ることができて良かった」「来年は今年の6年生みたいにがんばりたい」など、実際に目にしたことで得られた感動があった。
- ・ダイハツの出前授業や地域の防災訓練、町あるき、秋フェスティバル、九九検定、オープンジュニアハイスクール、トライやるウィークなど、地域人材を活用した学習や行事、学校を出ての学習など、予定していた行事もほぼ行うことができた。
- ・校内では、異学年交流を盛んに行うことができた。「自分ってまんざらでもないな」という自己有用感を育む取組として、お互いの学年にとってよい経験となっている。PTAの皆様も、「ほめてもら王カード」の取組や、読書週間の特製しおり作りなど、様々な面でご協力をいただいている。
- ・一方で、「いじめと向き合う」ということも学校全体で取り組んでいる。いじめ対策委員会やケース会議も行いながら、学校通信を通じて発信を行っている。

【委員より】

- ・トライやるウィークに来た中学生は、「子どもと接することが楽しかった」と、その後もサッカー教室にボランティアスタッフとして参加してくれている。良い経験をしていると思う。
- ・コロナでなかなか外へ出向けなかった子どもたちにとっては、人とのかかわりが本当に嬉しいことなのだと感じている。
- ・学校通信で、いじめ問題について2回発信していることについて、その都度教員が横つながりを持って対応してくれていることに安心した。何かあったとき、一番悲しい思いをするのは子どもである。担任が抱え込んでしまうことなく、チームとして今後も対応して行ってほしい。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果について

【国語】

県・全国平均より3～4ポイント低い。児童の答えを分析すると、3つの条件をふまえて回答する問題について、最後の1つが書けずに誤答となってしまいうケースが多かった。正答数の分布グラフを見ると、14問中9問正解の児童が最も多い。この分布が、10問以上正解のところへ入っていくと良いのだが。無回答率は低いので、児童はなんとか頑張っている様子が見える。

【算数】

基礎学力の定着がされていないことから、危機的状況ととらえている。その対策として、朝学習の徹底や取組内容の見直しを再度徹底しているところである。学年ごとに、基礎学力の定着を確かめる学校独自のテストを作成し、その学年で習得する内容を理解できているか、経年変化を確かめていけるようにしていく。学力の「見える化」を行えるようにしたい。

【児童質問紙】

自己肯定感に関する調査は、昨年度よりも全体的にアップしている。また、新しいことに挑戦しようとする意欲についてもアップしている。日々の取組を今後も続けていく。対話的な学びについては、数値はアップしているものの、全体的には若干低めの数値となっている。来年の研究につなげながら対策を考えていきたい。

【委員より】

- ・初めての事にチャレンジしようとする子は、実感として6割程度のように感じている。できない自分を受け容れることに抵抗感があることや、これまでに失敗したことを指摘され続けてきたことが影響しているのではないだろうか。達成目標は人それぞれでよいことを伝えながら、自己有用感を育てていくことが必要だ。
- ・学年が上がるごとに内容が難しくなり、家庭学習で親のフォローが難しくなっている。習熟度別や少人数制による学習で、今後も子どもたちの学習の定着をフォローしていってくれとありがたい。
- ・自主学習について、「決められた宿題よりいい」という意見もある。ただ、どんなことをすれば良いかわからないということもあるので、「こんな自主学習がよい」というモデルを示してもらえたら、子どもたちは助かると思う。

(3) 学校評価の中間報告について

- ・児童と教員の学校評価についての中間報告。保護者アンケートは現在まとめているところなので、2月の学校運営協議会にて報告する。
- ・本校では今年度、全クラスで「学級力アンケート」に取り組んでいる。子どもたちが主体的に学級運営について見つめ直し、課題解決に向けて考えていく取組である。87%の児童が肯定的に取り組んでおり、今後も継続していく。
- ・「体を動かす」ことについて、体育と外遊びについては分けて考えようということから、体育科の運動についてアンケートを行った。めあてをもった、意味のある体育科の授業を行うことを意識できてきている。
- ・教員アンケートには、授業のめあてに対してふり返りを行えたかという項目を新たに加えた。本校の研究でも取り組んでいることで、高い数値を得られている。
- ・一方で、読書をする機会については数値が上がらなかった。課題を明確にしている中で、なかなか成果が上がらないことについては、職員にも再度徹底していく。

【委員より】

- ・学級力アンケートの取組はとても良い。「感謝」「仲直り」「支え合い」など、人とかかわることで得られるものがたくさん入っている。子どもたち同士で高められるよう、今後もぜひ続けてほしい。
- ・以前勤めていたところで聞いた話だが、企業の若手採用の担当によると、挫折と人との関わりという経験が少ない若者がとても多く、すぐ「心が折れた」と言ってしまう人が多いそう。この経験は小さい頃から、小中高の積み上がりで得られるものだと思う。
- ・特別な支援を要する子どもたちへの配慮は必要。置いてきぼりにならないよう、今後も取組を続けてほしい。気持ちのコントロールが難しい子どもたちも増えている集団の中での感情統制が特に難しい子どもたちが増えているのではないだろうか。
- ・障害者施設で勤務していた。個別対応になるので、家庭との連携も特に重要だと感じている。あいさつなど、職員でもなかなかきちんと行えない者もいた。集団の中で、社会で生きていくために必要なスキルも身につけていってほしい。
- ・一人ひとりの子どもについて、持っている能力も異なるし、しんどい部分もそれぞれ違うと感じる。子どもたちの持つ良さを見つけ、伸ばして褒めていってほしいと思う。
- ・スポーツでも勉強でも、「おもしろみ」を見つけられるかが大事だと思う。頑張った結果で得られるものが多くあればいい。そのためには、学習を積み重ねる上での「わかる」を増やしていくことが必要である。

7. 閉会あいさつ（阪田会長より）

体育大会や研究発表会で、子どもたちの姿を間近でみることでできてよかった。体育大会は、保護者入替の段取りなど、PTAの方たちの尽力も素晴らしかった。研究発表会は、当日までに先生たちがいかに多くの準備を重ねてきたかがよくわかった。今後、学力についても平均よりも下の子たちをどうフォローしていくかが課題となる。現場の先生方は本当によく頑張っているのだから、県や市のバックアップもお願いしながら、地域としても様々な形でぜひつながっていきたくと考えている。